



にじのはし幼稚園 園だより



令和8年2月号
港区立にじのはし幼稚園
園長 飯田美弥

3学期が始まったと思ったら、もう2月の足音が近づいてきました。新しい年を迎えて一回りも二回りも大きくなった子どもたちともう少し一緒にいたいから、ゆっくり過ぎてほしいという気もちと、数年来の寒波に見舞われ凍えそうになる日々が辛いから、早く春になってほしいという気もちがせめぎ合う日々です。

寒い日の朝、早く登園した子が園庭に出て、霜柱を発見しました。台車に張っていた氷も発見しました。この冬の大発見を大喜びし、その後登園してきた子にも声をかけて、朝の支度は後回しで氷や霜柱を探すことを楽しんでいました。氷や霜柱は日中日にあたると溶けてしまいます。日陰のある場所を選び、日が差してから日陰に移動しながら、氷や霜柱を観察している子もいました。今年一番の寒さになると予報されていた前日、次の日は氷が張るかもしれない予測し、水を撒いて準備をしていた教職員がいたのはここだけの秘密です。

幼稚園教育は、環境を通して行う教育とも言われています。幼児の生活や遊びを軸にし、幼児自ら周囲の環境に働きかけて様々な活動を生み出していくます。その周囲の環境を構成することが、教師の大きな仕事です。幼児は自分で周囲の環境から発見したり興味をもったりするのですが、そうなるためには幼児が興味をもつ環境が身近にある必要があります。何に興味をもつかは、日々幼児と生活する中で教師が捉えていきます。今回の氷や霜柱のように、季節を逃すと出会えないものもあります。興味をもってほしいことに、幼児が自らかかわっていくようにするために、どんな環境を用意すればいいのか、先生たちは試行錯誤しながら設定していきます。想定通りにうまくいくこともあります、全く違う展開が生まれることもあります。また、教師や友達が環境となることもあります。幼児の発想や気付きに寄り添いながら、教師も一緒に学んでいます。幼稚園では、幼児が自ら積極的に人やもの、自然現象などの環境にかかわり、体験を重ねることで、生きる力の基礎が育まれていくように、計画的に環境を構成することを大切にしています。これからも、幼児の姿から学び、幼児と一緒に成長し続ける教職員であります。

2月は、豆まきやにじっこコンサート、プレスクールⅡ(1年生との交流)、ひな人形づくりや修了に向けての活動など、短い月にぎゅぎゅっとたくさんの行事が入ります。今月も一つ一つの行事や活動にねらいをもちながら、幼児が心を動かす体験が積み重なっていくよう、大切に過ごしていきたいと思います。

幼稚園経営計画 今年度の主な取り組み (3)からの抜粋

①遊びに没頭し、心動かされる多様な体験の中で、幼児が様々に感じ、気付き、考えたことを表現する経験や、試行錯誤・振り返りの経験を積み重ね、知的好奇心を高めながら、豊かな感性と創造性を育み、思考力の芽生えを培います。

